

プラットフォーム型施設管理支援サービス提供開始

先行導入で約30%の工数削減効果も

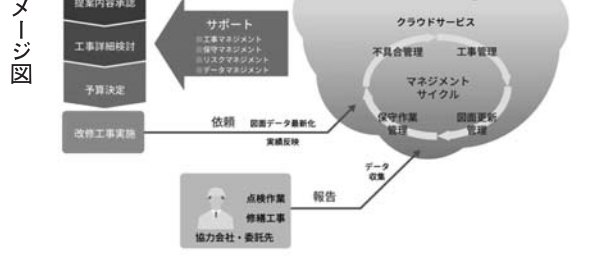


ファシリティソリューション本部
シェリングサービス・小野 雄介氏

NTTファシリティーズ(東京港区)は、企業の施設管理業務の効率化と品質向上を実現するプラットフォーム型施設管理支援サービス「FACILITIES Agent」(ファシリティーズエージェント)の提供を6月1日より開始した。

NTTグループの保有資産の一元管理を手掛けている同社は、施設の維持管理およびファシリティーマネジメントを軸に企画、設計、施工から運用管理まで幅広い業務領域を手掛けている。電話局やオフィスビルを中心に全国およそ1万4000棟の施設管理を行っており、その中には商業施設や研究・研修施設、データセンターなども含む。過去には横浜銀行や聖路加国際大学といった外部受託によるファシリティーマネジメントの取り組みが評価され、日本ファシリティーマネジメント大賞(JFMA賞)を受賞した経歴も持つ。

今回提供を開始した「FACILITIES Agent」は、これまでの同社の豊富な実績やノウハウをもとに開発されたもので、同社の専門技術者による分析や業務支



「施設管理の現場では人手不足が深刻な問題となっている。建物や設備の高度化によって業務の複雑化も進み、作業にかかる負担が増しているのが現状です。一方、昨今の物価高

騰を背景に維持管理コストを保持しながら一定の品質を維持することは非常に重要となっています。『FACILITIES Agent』は、当社がこれまで多様な業種や用途の施設管理を通じて蓄積してきたノウハウや知見をベースとし、専門技術者によるマネジメントを通じ、現場での実作業から上がってくるデータの一元管理までをパッケージ化したサービスです。多数の建物資産を保有するビルオーナー様の施設管理業務を担う施設管理部門で、施設管理人材の不足や業務継続に課題を抱える企業の採用を想定しており、特に複数拠点や遠隔地の施設を管理するお客様において、施設管理業務の効率化や管理品質

施設・設備の維持管理を効率化 「ANDPAD」の新モデルをリリース



執行役員
西野 史記氏

アンドパッド(東京港区)は、店舗やビル、工場などの施設や設備の維持管理業務を効率化するクラウドサービス「ANDPAD BM」の提供を本年5月に開始した。



建物の維持管理や設備点検の現場では業務が多岐にわたり、多数の関係者間で情報の伝達不足や分断が発生しやすい。業務の効率化や点検業務、修繕状況まで情報をクラウド上で一元管理し、効率のよい施設管理を実現する「ANDPAD BM」の開発に至った。執行役員の西野史記

生成AIパスポート資格取得をサポート 大手ビルメン会社でもAI活用を推進

KIZASHI



リスクリング事業部 執行役員
兼 営業統括 吉田 圭佑氏

企画の立案からマーケティング、データ分析など、ビジネスのさまざまな場面において生成AIの活用が進んでいる。不動産業界でも、BtoC向けのチラシといった広告物の制作や、間取り図の作成、不動産価格の査定など、活用の幅を広げている。一方で生成AIの普及には懸念点もある。事実とは異なる情報を、あたかも根拠がある事実であるかのよう出力する「ハルシネーション」と呼ばれる現象がその代表である。またこのほかに機密情報の漏えいやプライバシーの侵害など、場合によっては企業のコンプライアンスに抵触する恐れもあり、このようなリスクを十分に理解した上で適切に活用することが求められる。

昨今では、生成AIの基礎知識やリスクマネジメントを証明する民間資格として「生成AIパスポート」が登場しており、運営している生成AI活用普及協会(東京都中央区)の発表によれば、有資格者は累計で7万2

Japan Reskilling Initiative
日本をリスクリングせよ

第1部：なぜいまリスクリングが重要なのか
～技術的失業の議論の再燃～

なぜ海外でこのリスクリングというものが
広まってきたのかという話

最大の利点は「ANDPAD BM」の情報が維持管理までデータ管理を一元化して行うことができる点である。建物や設備の図面や仕様書などを過去の修繕履歴などとともにクラウド上でデータを一元化。これにより情報の漏えいを防ぐ。現場での点検業務は専用アプリを用いてスマートフォン

での撮影や簡単な入力作業で記録でき、表計算ソフトへの転記は不要。管理者の事務作業の負担を軽減する。西野氏は「当社製品をスムーズにご活用頂けるの実施数は年間1万回以上に及びます」とサポート体制の充実にも自信をのぞかせる。アンドパッドでは建物・設備の管理を担う企業を中心に「ANDPAD BM」の訴求を展開し、数年後にはト

研修は、社内AIの専門部署が新設され、今後はさらなる受講も検討しているという。人手不足が慢性的な社会課題となるなか、業務における生成AIの活用は業務効率化を進める上で避けて通ることができない。KIZASHIでは講習から資格取得、助成金の活用までサポート。自社のAIスキルの底上げに活用したいと

キリング研修を行っている。リスクリング事業部執行役員兼営業統括の吉田圭佑氏は「当社は生成AI活用普及協会のアンバサダー委員会で委員長を務めており、当社の研修は知識を深めるだけでなく、研修の受講と資格取得をセットで実施できる点が特長です。生成AIパスポート試験の内容と同等の学習が可能で、チェックテストに合格すると資格取得できます。受講期間中は何度でも受け直しが可能。諦めなければ資格取得までしっかりとサポートします。研修は、社内AIの専門部署が新設され、今後はさらなる受講も検討しているという。人手不足が慢性的な社会課題となるなか、業務における生成AIの活用は業務効率化を進める上で避けて通ることができない。KIZASHIでは講習から資格取得、助成金の活用までサポート。自社のAIスキルの底上げに活用したいと